

# Форум «Обзор истории русской эмигрантской литературы»

## 公開フォーラム「ロシア亡命文学を考える」

冷戦崩壊、国民国家の弱体化、グローバル化という20世紀末から現在までの世界的な状況の変化によって、私たちは「亡命」や「ディアスポラ」といった概念についても、これまでとは微妙に異なる観点から再検討する必要に迫られています。このような再考は、従来から多言語・多民族圏であり、また幾多の亡命者を生んできたロシア文学あるいはロシア語文学の歴史を考えるうえでも重要です。この研究会では、ロシア亡命文学・ディアスポラ文学に詳しい3名の研究者の講演と報告を受けて、亡命／ディアスポラという、すぐれて今日的な問題について話し合います。



●15:00-16:15 Основной доклад / 基調講演

Maria Rubins / Мария Рубинс (University College London / SRC of Hokkaido University)

«Литературная диаспора в (пост) национальных контекстах»

マリア・ルービンス (UCL/北海道大学スラブ・ユーラシア研究センター特任教授(外国人招へい教員))  
「(ポスト)ナショナルな文脈における文学的ディアスポラ」

●16:15-16:30 Перерыв / 休憩

●16:30-17:00 Доклад / 報告

Миягава Кинюё (Женский колледж Университета Саппоро)

«Эмиграция и "еврейский вопрос" в жизни и творчестве И. А. Бунина

宮川絹代(札幌大学女子短期大学部) 「ブーニンにおける亡命と『ユダヤ問題』」



●17:00-17:30 Доклад / 報告

Накано Юкио (Досия Университет) «Три историка русской литературы: Дмитрий Святополк-Мирский, Глеб Струве и Марк Слоним (по архивным материалам)»

中野幸男(同志社大学) 「3人のロシア文学史家:スвятポルク=ミルスキー、ストルーヴェ、スローンム(アーカイブ資料から)」



●17:30-18:30 Дискуссия / 質疑応答



2020年2月19日(水)

15時00分-18時30分

京都大学総合研究2号館(文学部校舎

北向かい)・文学部第9演習室

聴講無料・予約不要 使用言語:ロシア語

共催:北海道大学スラブ・ユーラシア研究センター 京都大学文学研究科スラブ語学スラブ文学専修

科研費基盤(B)オーラルヒストリーによる旧ソ連ロシア語系住民の口頭言語と対ソ・対露認識の研究(課題番号 16H05657)

問い合わせ先 nakamura.tadashi.6r@kyoto-u.ac.jp